

何のために勉強をするのか、進学をするのかを考えよう

—自覚を持って勉強するために—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：勉強がよくできる、つまり成績を上げる、希望校に合格するための秘訣は何ですか。

A：(林明夫。以下省略)よい質問ですね。どうしたら勉強ができるようになるのか、どうしたら学校の成績を上げることができるのか、どうしたら希望する学校に合格することができるのかと、自分の力で考えることは素晴らしいことです。

また、いろいろな人から意見を聞いた上で、自分なりの考えを持つことは立派なことです。

これから私の考えをお伝えしますので、いろいろな考えの一つとして参考にして下さいね。

私の答えは、何のために勉強をするのか、何のために進学をするのかを自分の力で考え、確固たる信念、つまり自覚を持って学校の勉強をし、また、受験勉強をすることが成功の秘訣というものです。わかりましたか。

Q：自覚がないとどうなるのですか。

A：何のために学校で勉強をしているのか、何のために受験勉強をしているのかがはっきりしませんから、よい結果を出すことは困難、難しいと言えます。

自分は今どこにいて、何をやっているのだろう。一体ここはどこで、自分は何なのか。時々はこのようになことを突き詰めて考えるのも人生のよい勉強ですから、ぜひやってみて下さいね。

自分というものを見つめて、自分の歩む道を自分で探し求め、一定のものが見えてきたら行ったり来たり試行錯誤(しこうさくご)を繰り返しながら、少しずつでも理想や夢に向かって前に進む。これが、人間の一生かもしれません。

Q：えー。随分難しそうですね。どうしたらよいのですか。

A：人の一生にはいろいろなものがあるということを知ることが大事です。家族や親せき、近所や学校で会う人々の生き方をよく見ることもよい勉強になります。

私がお勧めしたいのは、学校や市や町の図書館に行き伝記を読むことです。日本や世界の発展のために活躍した人たちの伝記を、ゆっくりと5～6回読むことをお勧めします。こんな生き方をした人も日本や世界にはいたのかと、とても参考になりますよ。

伝記を読んだほうよいのは、小学生や中学生だけではありません。高校生、大学生、大学院生になっても、また、社会で活躍するようになってからも伝記はとても参考になります。80歳、90歳を超えてからも伝記をじっくり読んで、人生を充実させておられる方はたくさんいらっしゃいます。

伝記を読むと、どんな困難も克服するエネルギーが湧いてきます。信念を持った生き方の大切さがわかります。使命感や自覚を持ってものごとにあたることの大切さがわかりますよ。

Q：伝記を読む他に、自覚を持つ方法がありますか。

A：新聞を毎日じっくりと読むことです。世界や日本、今住んでいる地域で何が発生しているのかを新聞社の目で伝えてくれるのが新聞です。

新聞には、楽しいことばかりでなく、社会の問題点を非常に厳しい目で指摘した記事がたくさん出ています。

社会の解決しなければならない問題を新聞で知ることができますので、興味や関心のある事柄についてどうなっているのかを知ることができます。

例えば、私は、中学生の頃に新聞で教育や外国の記事を読み、教えることへの興味を持ち、また、外交にも関心を持ちました。新聞記事で刑事事件の記事を読み、また、何人かの裁判官や弁護士の伝記を読み、法律家というものに興味を持った記憶があります。

勉強をして学校の先生や外交官、弁護士になりたいなど中学校の1～2年生の時に思ったのは、新聞や伝記のためでした。そのお陰で、勉強は随分はかどったようです。

Q：受験まではもうわずかです。受験生に一言お願いします。

A：「受験生としての自覚」を最後まで持って机に向かうことに尽きます。

何のために生きるのか、何のために勉強するのか、進学をして何を学ぶのかをいつもいつも考えながら、受験勉強をして下さい。どのような小さなことでも自分なりの答えが見つかったら、それを大切に、大切に心に秘めて受験勉強をして下さい。どんな小さな夢でも持たない限り実現しません。

If you can dream, you can do it !

このことばを心の中で叫び続けながら勉強して下さい。

夢は必ずかないます。

頑張ってくださいね。

— 2010年1月22日記 —